



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
1979

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 中村 哲朗
幹 事 森信 秀樹

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS
「ロータリーの未来は
あなたの手の中に」

本年度会長テーマ
「ロータリーの心で周囲を包もう」

「ロータリー雑誌月間」

2010年4月15日 第1955回例会

◆ 会長時間 ◆

中村(哲)会長



桜の見頃も終りになりました。開花予想は例年より早く出ましたが、開花した後の寒さで2週間以上も楽しむことができませんでした。変な気候が続いていますが、今年の夏はど

んな気温になるのか大変気懸りです。ファッション、電気機器、ガス、電力業界等は気温の変化で需要が変動すると言われていますが、私の属する食品業界でも同じです。夏は暑く、冬は寒くという気温の変化が無いと食品の売れ筋が変わってきます。

さて4月は「ロータリー雑誌月間」であることを先週の例会でお話しました。広報活動という面からの話ですが、広島西RCのホームページがリニューアルされています。ご覧になられているでしょうか。現在、諏訪昭浩会員を中心に作業をお願いしておりますが、順次ホームページに掲載する内容の整備をされつつあります。いろいろな情報をホームページにリアルタイムに掲載するにはどのような対応をすれば良いか、また今後蓄積されていく過去のデータを保存するという重要な側

面もあります。私は時々アクセスしておりますが、リアルタイムで動き始めると相当量の情報に接することが出来ますし、当クラブの運営にも大きな変化が出てくると思っております。会員の皆さんもこのホームページにアクセスして頂いて、その内容をチェックして下さい。そしてページ構成等の要望があればどんどん発言頂きたいと思っております。

● 会務報告

森信幹事

※4月29日の14RC合同懇親ゴルフ大会の組合せ表を配布しておりますので、参加の方は確認をお願いします。

※モントリオール国際大会に参加をされる方は、地区で出席者を把握したいとの依頼がございましたので、事務局までご連絡をお願いします。

※先週例会でお願いしておりました「ロータリー財団のチリ地震災害復興基金」及び「交通遺児育英会」募金について、それぞれに17,730円を送金いたしました。ご協力ありがとうございました。

※例会終了後クラブ協議会を開催いたしますので、メンバーは出席願います。

● 委員会報告

出席報告 村上(智)副委員長

本日(4月15日・木曜日)

会員数 87名 出席者 76名

欠席者 11名 ご来客 6名

ご来賓 0名 ゲスト 0名

計 82名

前々回(4月1日・木曜日)

出席率 100%



※40周年記念誌広報委員会 鈴木委員

記念誌に会員紹介という部がございます。

そこに掲載する原稿及び写真のご案内です。

記念誌の中に会員の紹介欄がありますが、そのために写真2枚が必要となります。

その1つ、顔写真は紫風会で例会前に撮っていただく段取りになっています。まだの方は来週の例会に早めに来ていただきおとり頂きます様お願い致します。

2つめは、スナップ写真です。良く撮れていると思われるものを一枚ご提出下さい。それから、先週ボックスに入っております用紙に、タイトル15字、本文は140字以内で「自己紹介」、「私の趣味」「最近思うこと」あるいは「40周年に寄せて」などなど、何でもいいますから書き下さい。

締切は来週木曜日の例会時、4月22日ですので宜しくお願い致します。

私もしくは小橋会員までご提出下さいます様お願い申し上げます。

● 同好会報告

🎯 バイオレッツ 柴田世話人

ガバナー杯準決勝、決勝で使用する市民球場利用抽選会参加のお願いについて

📅 ご入会記念月おめでとうございます。

(5名)

三浦君(S56年) 松岡(幹)君(S57年)

小島君(S57年) 香川(基)君(H8年)

池田君(H17年)

🌸 創業月おめでとうございます。

(11名)

井原君 医井原クリニック

梶川君 医翠清会 梶川病院

川西君 ㈱トータテハウジング

宮崎君 ㈱仏光社

尾鍋君 医・社たかし会尾鍋外科病院

末岡君 末岡司法書士事務所

豊岡君 豊岡ヘルシー歯科医院

垂井君 C A F 垂井俊郎建築設計事務所

宇田君 ダイヤモンドトラベル㈱

瀬尾君 ㈱クマヒラセキュリティ

藤原君 学鈴峯女子中・高等学校

👑 3月決算月おめでとうございます。

(23名)

児玉君 (医・社) 仁和会児玉病院

武田君 広島ガスリビング㈱

中村(秀)君 太陽機工㈱

土井君 ㈱SANYO KOUKOKU

小島君 ㈱栗本ホールディングス

松岡(幹)君 ㈱松岡製作所

園尾君 戸田工業㈱

上田君 上田昆布㈱

池田君 ㈱広電宮島ガーデン

竹本君 ㈱ヒロツク

中村(哲)君 カクサン食品㈱

大本君 大本・三宝法律事務所

森脇君 宗住吉神社

羽井君 内外飼料㈱

浜田君 浜田木材㈱

藤田君 宗浄土宗浄国寺

坂田君 (街)うを久

高橋君 ㈱広島銀行

中野君 医古江 中野眼科医院

大西君 広島菱重興産㈱

瀬尾君 ㈱クマヒラセキュリティ

荒川君 アイワ建設㈱

成瀬君 住友生命保険(相)広島総支社



● スマイルボックス S A A 笹野委員

☺ 武田君 (自主申告)

4月4日(日)、芸南C Cの月例にて優勝させて頂きました。

ハンディとメンバーにめぐまれた結果と考えています。さらに研鑽し、皆さんの足を引っばらないようなゴルファーになるよう頑張っていきたいと思います。

● 第10回理事会議事録

と き 2010年4月1日(木) 15:30~17:30

ところ ANAクラウンプラザホテル広島4F

「松の間」

報告事項

- ・ 合同幹事会報告（3月18日）
インターシティミーティング剰余金の取り扱い、ニカラグアへ広島市清掃車寄贈の件は各クラブ理事会にて協議する
- ・ 合同事務局運営委員会報告（3月23日）
ほぼ予算通りに推移している
- ・ 3月収支決算報告、40周年記念行事特別会計。
ほぼ予算通りに推移している
- ・ 会長賞申込みについて
申し込み済
- ・ 会員増強推進計画表彰は申込書提出する。2名の退会会員の復元と言う会員拡大策を強調。
- ・ インターアクトよりスキーツアーの報告
（承認）
- ・ みずとりの浜維持管理業務（承認）
次年度記念植樹のネームプレートを検討
- ・ プログラム出席委員会より5月13日例会の30分時間延長依頼（承認）

審議事項

- ① 前回議事録の承認（承認）

協議事項

- ① 広島西ロータリークラブ 新ホームページについて（承認）
- ② 第5回クラブ協議会（4月15日）について
例年通り実施（承認）
- ③ 在広RC合同懇親ゴルフ大会について
（承認）
- ④ G6、G7合同IM 剰余金処理について
（承認）
- ⑤ ロータリー・チリ復興基金、交通遺児支援金について（承認）
- ⑥ 例会食事内容検討について（承認）

■ 卓 話



鳩山政権と 国政風景

尾形 幸雄 会員

戦後最低？の鳩山政権

私は鳩山政権は戦後最低の政権ではないかと思っています。ダメ総理はこれまで何人かいましたが、閣僚には人材もいたし、それなりにしっかりしていた。ところが鳩山政権ときたら、週刊誌に「ほんにお前は屁のような」と揶揄されるような総理に、大臣連中もいささかお粗末。てんでばらばら、勝手なことを言い合い「学芸会」と言われる情けなさです。

一番問題なのは総理と与党の幹事長が揃って「政治と金」の問題を抱え、また重要政策が「政治主導」ならぬ「選挙主導」に陥り、マニフェストというばら撒きの大風呂敷を広げて国家財政を破綻に追い込みつつあることです。外交面でも沖縄の普天間基地の移設問題で、確たる宛もないのに13年かかった日米の政府間合意をひっくり返し、対日不信から日米同盟に暗雲を生じさせただけでなく、わが国の安全保障に波風を立てています。

平成22年度の一般会計予算は92兆2,992億円。前年より3兆7,512億円増。税収が約37兆円しかないのにこれを上回る44兆円の国債を発行してつじつまを合わせ、税収より借金が遥かに多い、という前代未聞の予算しか組めませんでした。公債残高が862兆円でそのGDP比率が181%。つまりわが国は国民総生産の1.8倍の借金を抱え込むことになったわけです。

この予算について国家戦略担当大臣がテレビに出て「どなたが見ても『この国が続くのか』と不安心理を醸し出すのは間違いない」と自ら酷評するのは、一体どういうことでしょうか。

1日平均50万円の「子ども手当」

鳩山総理にかかわる偽装献金事件と脱税疑惑は、一国の総理としての資格を疑わせるに充分ですね。3億5千万円にもものぼる偽装献金で元秘書2人が逮捕、起訴され、容疑を認めているにもかかわらず

「秘書が犯した罪は政治家が罰を受けるべき」「私なら、バッジを外します(議員を辞職します)」と公言していた口をぬぐって「不正な利得は得ていない」「私腹を肥やしたわけではない」と言い逃れに終始していますが「論言汗の如し」です。全く恥知らずですね。

実母から毎月1,500万円の「子ども手当て」をもらっていたという脱税疑惑は、これまた不思議ですね。年間で1億8,000万円、7年間で11億7,000万円。昨年末、贈与と認めて5億7,500万円の贈与税を払うことを明らかにしましたが、不可解なのはこれだけの大金が自分に入っているのに「全く知らなかった」と言っていることです。21年分を合わせると12億4,500万円、納税額は約5億7,500万円。「信じてもらえないだろうが・・・」とおっしゃいますが、1日平均50万円の大金が入ってくるのを知らなかったとは、われわれ庶民には到底信じられません。百歩譲って、本当に知らなかったとしたら、そんな金銭感覚の、ノーテンキな政治家に国政を任せておいてよいのでしょうか。

もう一つの大きな疑問は、本当に知らないでいて「贈与契約」が成り立つのかどうか？贈与は贈る側にその意思表示があり、受け取る側にもその受諾意思表示があってはじめて成立すると民法にあります。「知らなかった」のになぜ贈与なのか。またなぜ「贈与」にしたのでしょうか。

さらに一層重大なのは、その巨額な資金の使い道です。親からもらった大金を使って、今日の地位を得たのではないかという疑惑です。総理は押収された資料が返ってくればその使途を明らかにすると言いましたが、本当でしょうか。国会で大臣席を振り返り「ここにいる人たちには配っていない」と答弁しましたが、07～08年の政治資金収支報告書には政治家21人に計5,500万円を資金提供したとあります。その中には平野博文官房長官に1,000万円の記載があります。ぜひその全貌を明らかにしてもらいたいものです。

罪深い「政党ころがし」蓄財

次は小沢一郎幹事長。「永田町の不動産屋」と言われるほど次々に不動産を購入することが出来た巨額なカネが、なぜあったのか。それをどのようにして得たのかという疑問です。

小沢氏の政治資金管理団体「陸山会」は1994年

以来、東京都心部のマンションなどを多数購入。その総額は6億円を超えていたといえます。04年、例の世田谷区深沢で秘書寮用地を約4億円で購入。これが政治資金収支報告書に記載されていないことが判明し、さらにその資金の動きや出所が問題になりました。その資金にゼネコンからの不正献金が含まれているのではないかと疑惑です。これは立件は見送りとなりましたが、それで疑惑が解消されたわけではありません。しかしゼネコンがらみの蓄財よりも、もっと問題だと思うのはいわゆる「政党ころがし」による「合法的蓄財」で、この方がより悪質だと考えます。

わが国の政党には94年に成立した「政治改革4法」のうちの「政党助成法」によって政党交付金を交付されます。その総額は直近の国勢調査の人口を基に、国民一人当たり250円の合計と決まっており、平成22年度は約319億4千万円になります。これを一定のルールにより各政党に配分されます。

「小沢金脈」を追及しているジャーナリストの松田賢弥氏によると、小沢氏は新生党、新進党、自由党と政党をつくっては壊し、つくっては壊している間に、彼が実質的に支配する二つの政治資金団体「改革国民会議」と「改革フォーラム21」に約37億4千万円を流し込んだと述べています(文芸春秋10年4月号)。そしてこの小沢氏の「裏の財布」に入った巨額な金のうち「約25億8千万円は政党交付金や立法事務費などの公金、すなわち我々の税金である」と指摘しています。

今年初め、財務大臣であった藤井裕久氏が突如辞任した大きな理由は、この小沢金脈と関係があると広く信じられているのはご承知の通りです。02年、自由党は当時の幹事長、藤井氏に対し政党交付金約15億2千万円を「組織活動費」の名目で支出しています。ところが藤井氏はその金のことを「まったく知らない」と言っています。藤井氏はこの件を通常国会で野党に追及されるとまずいので辞任したとみられています。その後の新聞報道によると、その15億円は04年10月「改革フォーラム21」の口座に入金され、昨年8月の衆院選直前までにすべて引き出されたといえます。

ゼネコンからの資金も、もともとは公共事業費——税金がらみですが、政党交付金はあからさま

な税金。それだけに一層罪深いと言えるのではないのでしょうか。田中角栄と小沢一郎の違いはどこか？それは角栄は金のかかなりの部分を自分でつくったが、一郎は政党交付金を操作して蓄財していることだという説がありますが、当たっているかもしれません。自分が主導し、知り尽くしたシステムの裏を利用しているのでは、との疑惑。国民の81.4%が幹事長辞任を求めているのも当然ではないのでしょうか。

ちなみに政党交付金の22年度の配分額は民主党が172億9,700万円（前年より36億3,700万円増）、自民党が103億7,500万円（同36億5,200万円減）、公明党23億8,900万円、社民党8億6,400万円、国民新党3億9,700万円、みんなの党3億6,700万円となっています。8月選挙で大勝した民主党が36億円増え、その分自民党がマイナスとなって財政ピンチに陥っているのはご承知の通りです。

経済オンチの菅副総理・財務大臣

さて、もし鳩山政権が「5月危機」で瓦解したとき、後を襲う最短距離にあるのはやはり菅副総理・財務相でしょう。しかし彼は果たして宰相の器なのか、甚だ疑問を感じます。なぜか？それは彼が経済オンチと思えるからです。

それを遺憾なく裏付けたのは1月末の参議院予算委員会でした。自民党の林芳正政調会長代理に「子ども手当の乗数効果は？」と聞かれ、消費性向との区別が分からず、答弁席でオロオロ。

「脱官僚」の急先鋒の菅さんが、官僚の助けを求めるといふ醜態を演じました。

実はこの参院予算委の「菅・林対決」には第二幕がありました。それは3月3日の同じ予算委員会です。その模様をネットの「2チャンネル」から引用してみます。サンケイ新聞からの転載と思いますが、結構笑えます。

＜菅直人副総理・財務相が3日の参院予算委員会で、自民党の林芳正政調会長代理と“対決”した。

両氏は1月の予算委でも「消費性向」をめぐって論戦し、菅氏が答弁に窮した因縁があり、菅氏は「前回乗数効果と消費性向の質問があり、おかげで大変勉強させていただく材料になった」と皮肉で応酬した。

一方、林氏はノーベル経済学受賞者の故ポール・

サミュエルソン氏の代表作「経済学」を最近購入したという菅氏に「読んだか」と問うた。

同書は上下巻で1千ページ近いが、経済学を学ぶ大学生の教科書とされる。菅氏は「10ページだけ読んだ」と述べ、失笑を買った。

菅氏は昨年12月にサミュエルソン氏が死去した直後の記者会見で「サミュエルソン氏の考え方は日本の経済運営に大変参考になる」と絶賛していたが、林氏に「本を辞書代わりに使うのか・・・とやり込められ、またも「経済オンチ」をさらけ出してしまった＞

この対決は「2チャンネル」の格好の標的になり、これも充分笑えます。例えば

○菅が10ページも読んだのか。珍事だな。

○10ページって、本当は1ページも読んでないんだろ。

○読まないのなら俺にくれ。買おうと思ってるが、上下巻で1万円は躊躇する。

○菅は経済学を勉強していない財務大臣を売りにするつもりだ。

○菅は大学時代になにやったん？ 一般教養で経済学くらいはやるでしょ？

○ゲバ棒振り回して遊んでいただけやろ。

○そのうち、読みもしないハイエクとかフリードマンの本を絶賛するから、見ててみ。

○菅の特徴——①経済以外の話をするときは声がかい②経済の話をするときは声が小さい③林が相手のときはずっと声が小さい。

もちろん、国を憂える意見もあります。

○馬鹿な政治家が政治主導を推進すると国が減じる。当たり前のこと。で、こんな政党を支持するやつがいる。馬鹿だから。

○何で日本の内閣はアメリカみたいにその道のプロを選ばないのか？

○日本の憲法を改正して内閣は全員非国会議員から選べ。

○カスみたいな議員に外交やら金融やらやられるくらいなら、優秀なテクノクラートにやってほしい。もし結果が悪くても、現状よりは許せる。

以上、2チャンネルからの抜粋ですが、興味のある方はネットで「サミュエルソン 直人 国会」

を検索してみてください。

ピントはずれの岡田外務大臣

さて次は岡田克也外務大臣。ちょっとピントがはずれていますね。本来の業務を忘れて「沖縄密約」に血道をあげている。沖縄返還に伴い核持ち込みを含む密約が存在したことは、何も新しい事実ではない。交渉に当たった佐藤首相の密使、若泉敬氏がその間の経緯を書き残しているし、米側の文書も公開されています。問題は秘密文書といえども一定期間の後には公開するシステムを確立されていないことです。秘密、ヒミツと騒ぎ立ててもしょうがない。結局ヤブをつついて裁判所から「秘密文書の提出」を命令され、外務省も財務省も頭を抱えていますね。

望ましいことではありませんが、国家間の外交では国益のためには密約も必要な場合があります、それは認めなければなりません。ローマの昔から、戦争で失ったものは、戦争で取り戻すほかはないのです。それを平和裏に取り返すため佐藤さんは苦悩し、決断したのです。それを悪しざまに言うよりも、システムの不備を反省すべきだと思います。

税金「国外垂れ流し」の子ども手当

さて、次は露骨な選挙目当て—「選挙主導」の愚策を二つ採り上げてみます。その一つは「子ども手当」です。

この手当ではご承知のように15歳までの子どもの保護者に毎月2万6千円を支給する制度です。ただし初年度の22年度は半額の1万3千円となります。財源は初年度2兆7千億円、翌年度から5兆4千億円が必要とされています。ところがその恒久財源の確たる根拠がないまま、また内容のさしたる審議もせずに与党と公明、共産の賛成で可決、成立しました。7月の参議院選挙の前、6月に支給しようと急いだのは見え見えです。この制度はわが国の将来にとって重大な問題を数々含んでいます。

その第一は支給額がなぜ2万6千円なのか？その算出根拠を政府は明確に示していません。一説には小沢氏が民主党の代表時代に衆院本会議で突然「6兆円規模の子ども手当を創設する」と発言し、その額を子どもの数で単純に割り算したら2万6千円になった、といっています。その必要財源を消費税に換算すると、年度によって上下があるものの概ね

1%分が約2兆円ですから手当て半額で1.4%、満額で2.7%分の消費税増税が必要になる計算です。

第二は手当の支給対象の問題です。支給は日本国民のみならず、在日外国人の子ども、さらにその母国にいる子どもや養子、また実子、養子以外でもその支給基準を満たしている場合は支給されることになっています。これは税金の「国外垂れ流し」といってよいでしょう。現に東京ではネパール人男性が区役所に申請に訪れ、4人の子どもが母国で暮らしているといい、年間62万4,000円の支給が認められたと言います。窓口に来るのは中国人が一番多いと言われますが、はるか母国にいるという実子や養子、ましてやそれに準ずるものを市町村がどうやって確認するのでしょうか。その一方で、子どもを日本に置いて、海外で働いている日本人には支給されない。これではとても割り切れないし、納得できませんね。

このほかこの手当では①目的が少子化対策か、子育て世帯への生活支援なのか、あるいは景気対策なのか明確でない②所得制限がない③第一子、第二子、第三子とも同額であり欧州諸国のような少子化対策としての傾斜配分となっていない④巨額の財源を現金給付—ばら撒きだけに使い、子育て環境の整備拡充に目が向いていない⑤制度設計が杜撰なうえ、スケジュールを強行したため市町村に過重な負担を押し付けている—など、問題を数えたらきりがありません。恐らくブーイングが無視できなくなり、抜本的な見直しを迫られると思います。

政権を揺るがす普天間基地移設

鳩山政権の命運を左右しかねなくなった普天間基地移設問題も、元はと言えばこれも「選挙主導」—選挙の票欲しさからの無責任極まるリップサービスからきています。昨年の8月総選挙で沖縄県民に移設先を「国外、最低でも県外」と約束し、そのせいもあって沖縄の4選挙区から自民が消え、4議席を民主2、国民1、社民1と与党が独占しました。選挙戦で3区の民主新人の玉城デニー氏は「鳩山代表や小沢前代表に（代替施設を）県外につくることを確認した」と訴え、自民前職に2倍の得票で大勝しました。

ところが選挙が終わって、日米合意した名護市辺野古のキャンプ・シュワブ沖合い移設案を引っ

くり返したものの、何の代案も持ち合わせていないことがはっきりしました。

移設先を「年内に決める」と言っていたのが年を越し、3月末と退路を断ったはずがまた延びても鳩山総理は「3月と法律で決まっているわけではない」と言い出す始末。先日渡米したけれどオバマ大統領との正式な首脳会談を断られ、やっと会えて「5月末までの決着」を約束しましたが、どうなることやら。米側が「地元の同意が条件」と言っている以上、今の情勢では5月末までに決着はまず無理とみてよいでしょう。そうすると当然、その責任を問う声、鳩山退陣への圧力が高まってくることは確実です。

静かに地殻の揺り戻し？

さて、この7月中に必ずある参議院議員選挙。興味津々ですね。果たして“豪腕”小沢氏の狙う民主党の単独過半数が実現するのか。それとも野党の目指す衆院との「ねじれ現象」を演出できるのか。「政界の一寸先はヤミ」なのでこれからどう展開するか軽々に予測はできませんが、各社の世論調査の結果や最近の地方選挙の動向などをみると、あるいは民主党の敗北—もしかしたら大敗、を思わせる兆候がいくつかあります。

その世論調査ですが、4月5日付けの中国新聞によると鳩山内閣の支持率は僅か33.0%。不支持が53.3%と過半数を超え、ほとんど危険水域に達しています。「民主党が参院で単独過半数を占めた方がよい」が27.5%に対して「占めない方がよい」が過半数を上回り56.8%で、民主党に拒否反応を示しています。

一方の地方選挙。2月の長崎の県知事選挙で大敗して以来、各地の市長選で民主党の推薦候補がほとんど負け続けています。この中国地方でも11日に行われた鳥取市長選で党幹部や閣僚を投入したにもかかわらず、得票に倍近くの差をつけられて敗北。岡山県の浅口市長選でも菅直人副総理・財務大臣の義弟が自民党の推薦する候補に敗れました。これは何を意味するのか。僅か半年にして、静かに地殻の揺り戻しが進んでいるのではないのでしょうか。

2人区について複数立候補を強行する“小沢流”の選挙戦術が京都、静岡に続いて岐阜県でも地元の反乱を招いています。しかし、この作戦は参院

選挙の特性を考えれば実は正解なのです。参院は比例代表議員の比率が非常に高く、定員242人のうち選挙区146人に対して比例代表は96人で全体の約40%を占めています。しかも全国一選挙区で「非拘束名簿式」をとっています。このため2人目の候補者が当選しなくても、なにがしかの票を集めてくればオンの字で、比例代表の押し上げに貢献します。比例代表の当選者は政党名と個人名の票を集計し、その総得票数を基にドント方式で決定されます。いわば総得票数上積みのための「犠打戦法」とも言えます。

小沢氏は反乱に対して「2人目の選挙は党でやる」とタンカを切りましたが、何を考えているのでしょうか。あるいは自民党からはがした組織や業界団体を、これに当てるつもりではないのでしょうか。票の出方をみて「勤務評定」し、来年度のばら撒きの参考にしようとしているのかも知れません。いずれにしろ、今度の参院選は話題に充ちたものになること必定ですね。

ロータリー情報

ガバナー補佐の役割

ガバナー補佐の役職は、地区リーダーシップ・プランの重要な要素として1996年に設置されました。このプランは、地区ガバナーがクラブにより良い支援を提供できるよう、すべての地区のためにR I 理事会が採択した組織構造です。ガバナー補佐は、地区ガバナーにより任命され、指定されたクラブの管理運営を援助します。これらの重要なロータリーの指導者は、次期クラブ会長の就任年度の準備や、ガバナーの公式訪問の計画を助けたり、目標を達成するための方策をクラブに助言するほか、担当するクラブを少なくとも年4回訪問します。

ガバナー補佐は、クラブに対して迅速な支援を行うほか、将来のガバナーとなることのできる、十分に研修を受けた地区指導者の人材となります。ガバナー補佐は、地区内の諸事が万事順調に運ぶよう援助し、クラブと地区ガバナーの両方にとって重要な支援者としての役割を果たしているのです。

クリフォード L. ダクターマン著
「ロータリーのいろは」より抜粋